

神戸市会議員（中央区）

平木ひろみ



市会報告

✉ hirakihp@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hirakihiromi.com>
 携帯 090-6208-1313

こうべ市民連合議員団：〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 / TEL:078-322-5844 FAX:078-322-6161



平成30年度予算案の提案を受けて、神戸市会では3分科会に分かれて各局に対する審査をします。今回は、第1分科会の副委員長を拝命し、審議の進行役を務めました。
 (質疑者：人見委員、奥が委員会、手前が市役所当局)

教育委員会に対する局別質疑

小学校英語教育について



Q：平成32年度からの小学校英語教科化に向けて、神戸市ではどのように英語指導教員を配置するのか？

A：5中学校11小学校の研究推進校において、より優れた指導法、評価法等の開発、研究を行い、全市に向けて発信する。大規模校、研究推進校を中心に配置し、全校配置を視野に入れ複数校担当なども検討していく。

Q：大学での小学校教員免許教育課程に英語を含む外国語科目履修が義務付けられるのは必修化時期には間に合わない。神戸市での人材確保はどうするのか？

A：一定の英語力保持者への加点制度を設け、小学校英語コース試験も実施してきた。今後も採用試験の工夫に加え、現職教員への研修の充実を図っていく。

Q：教科として、どのように評価基準を定めていくのか？

A：研究推進校で評価基準についても検証しており、全市で活用できるプログラムを作り、周知を図っていく。

Q：英語指導教員が配置されない学校はどうするのか？

A：中学校の教科担任制のような仕組みを導入し、各校での指導体制を構築して推進していく。

学校司書の配置拡充について



Q：児童生徒の豊かな心の醸成と確かな学力の向上に効果のある学校司書を全校に配置していくべきではないか？

A：財政的負担は増えているが、今後も配置拡充に努める。

外国人児童生徒に対する日本語指導について

Q：日本語指導は少しずつ充実してきたが、「生活日本語」から「学習日本語」の習得まで、指導を体系化し一本化することで、個人にあった指導ができるのではないか？

A：これまでの指摘を受け、従来の事業体制を見直し、2事業に統合した。今後は「日本語指導における特別の教育課程」を個別に作成し、継続的に支援を充実していく。



ICT環境の整備について

Q：ICT機器の導入は、集中力や学習意欲の向上が見込まれるため早期に整備してほしいが、それを使って指導する教員への支援が必要ではないか？

A：ICT活用重点推進校では導入効果の検証を行っており、良い結果が出ている。教員に対しては、導入研修、活用事例提供など支援を充実していく。

過密解消に向けた柔軟な校区運用について

Q：少子化の進展があるものの、都心回帰傾向もあり、過密になっている学校の規模適正化はどのように進めていくのか？

A：従来からの過密化、小規模化への対策も含めて、各学校・地域に適した手法を柔軟に検討していくたい。

ヘルプマークが神戸市でも導入されます！

ヘルプマークは縦8.5cm、横5.3cmの長方形の樹脂製のプレートで、赤地に白で十字とハートがデザインされており、周囲の人に電車やバスの座席を譲る、駅や商業施設で困っていたら声をかける、災害時に避難を支援することなどを呼びかけるもので、助けを必要としていることを表すためにつけるものです。カードの裏面は、「私が手伝ってほしいこと」を自由に記入できるようになっており、障害者手帳の有無にかかわらず、導入自治体の福祉担当窓口などで該当する希望者に無償で配布されています。

2017年7月にJIS改正で規格に追加されたことを契機に神戸市でも導入すべきだと提案し、この春から導入されることになりました。各区役所で配布されています。

